

第3回 青森市総合計画審議会総括分科会 議事要旨

- 【日 時】 令和6年6月27日（木）9：00～9：55
- 【場 所】 アップルパレス青森 2階 マリアージュ
- 【出席者】 神山 博 総括分科会会長、竹内 紀人 委員、児玉 寛子 委員、
佐々木 淳一 委員 計4名
- 【欠席者】 なし
- 【オブザーバー・傍聴者等】 なし
- 【事務局】 横山副市長、金谷企画部長、太田企画部次長、齊藤企画調整課長
ほか 計8名
- 【配付資料】
- ・次第
 - ・総合計画 前期基本計画 答申（素案）
 - ・総合計画 前期基本計画 答申（素案）【概要版】
- 【会議概要】

○前期基本計画答申（素案）について、事務局から説明。出席委員がそれぞれの分科会における審議内容の補足説明の後に意見を出し合い、事務局案を基本としつつ、一部修正が必要な部分については、後日、会長と事務局において調整することで了解が得られた。

総合計画 前期基本計画答申（素案）について

第1分科会所管部分の補足説明

（委員）

- ・毎年度、実績値が公表されない指標もあるが、今後、工夫しながら評価を行っていく。
- ・「仕事をつくる」ということをきちんと実行し、またフォローアップするためにはどうしたらいいのか、事務局と一緒に悩んできた分科会だったと感じている。

（委員）

- ・すぐに数値的な成果が現れないものであっても、地道に進めていかないとなかなか中長期的には成長していかないだろうと思う。

第2分科会所管部分の補足説明等

（委員）

- ・人口減少が進む中、少子化対策としての子育て支援にしっかり取り組んでいく姿勢を内容に入れてはどうか。

（事務局）

- ・検討させていただきます。

(委員)

- ・「1 仕事をつくる」にも関わってくるかと思いますがけれども、共働き世帯がこれだけ多い状況で、子どもの面倒を見ることは社会全体で担っていかなくてはいけないというのは、ますます喫緊の課題になるかと思いますが。そのときに、子どもを見守る、そして医療分野での包括ケアシステムなど、トータルの仕組みで青森方式と呼べるものが作れると良いと思っております。

第3分科会所管部分の補足説明等

(委員)

- ・これは分科会での議論になかったのですが、最近のいろんな新聞報道等でも青森市の人口減少はかなり進んで危機的な状況にあるということですので、これに対応するためにも、引き続きコンパクトなまちづくりに取り組んで既存ストックを有効に活用していくということをキーワードとして概要等に入れていただいて、強調するように出していたらと思います。

(委員)

- ・政策、施策を直接否定するような話ではないですが、政策2の施策3で空き家対策の推進があります。計画としてはこれでよろしいかと思うのですが、私も普段、地域経済の1つの項目として空き家は結構見ているもので、住宅土地統計調査の市町村レベルのものは今年の9月に確報値が出ます。それで、現在のポジショニングが明らかになる。そうすると、皆様は御存じのとおり、空き家全部がその悪いわけではなく、流通にちゃんと乗っているもの、それから二次的住宅、別荘とかは問題にならない。要するに、管理がされていてちゃんと活用されるのであれば、我々にとっては何も問題ないけれども、防災、防犯、衛生等に問題が起きるような物がやはり放置されている。これをなかなか強制的にというのは難しいところがありますけれども、法的な整備もあるので、進めていきたいと思います。
- ・目標とする指標として、空き家、空き地バンクの登録数みたいなことで追いかけていながらしっかりと見ていくというのは、この計画上ではよろしいと思うのですが、最終的にはやはり、この次の5年後の住宅土地統計調査でしっかりと、その他やどうしようもない空き家がしっかりと減っているというようにしないと、コンパクトで住みやすく利用可能性の高いまちということにはなりにくいのかなど。実際の事業展開の段階で、その他空き家の動向に十分留意されて、ストック統計のほうもしっかり見ていただければと思っておりました。

(委員)

- ・管理された空き家については、「仕事をつくる」のほうで活用できる可能性も十分ある

うかと思えます。オーナーがあつて、管理上難しいところもあるかと思えますが、連携というキーワードの下で、市がオーナーに働きかけて進められる部分もあるのではないかと思います。

- ・もう1点。ハザードマップは青森市でありますけれども、その啓発であるとか、あるいはボランティアの育成の状況というのは現在どのような状況になっていますか。防災の市民公開セミナーはどれぐらいやっているかなど、今手元にありますか。

(事務局)

- ・今、具体的な資料がありませんので、後ほど確認の上でお知らせします。

(委員)

- ・私の所にも時々、民生委員の方だと思つてのですが、回つてきたり、警察官の方が回つてきて、(自力で)逃げられますか、と声をかけてくださったりします。そういった地道な活動がやはり必要であり、いざという時に1人でも死者を出さないような対策に繋がっていくのだらうと思つています。これについて、実働の効果が十分あるような施策を進めていただければと思つています。2年ぐらい前に、青森公立大学で災害に関するセミナーをやつています。ダンボールハウスであるとか、あるいは非常食とか、そういったものを分かるように、所々で開催するといひだらうと思つています。
- ・また、特に若い世代は、災害が起こつた時にどういふふうに行動したらいいのかというのを知らない場合が多いです。市の情報はホームページにあるけれど、それが探せないとか、表に出てくるような働きかけが何かあるといひと思つています。

(4)「政策を実現するために」についての議論等

(委員)

- ・デジタル技術が急速に進展している中、デジタル技術を活用したまちづくりを進めていく姿勢を内容に入れてはどうでしょうか。

(事務局)

- ・検討させていただきます。

(委員)

- ・防災であるとか、あるいは山でクマが出た、サルが出た、といったときに、最近だとメールで連絡がきたりすることがありますけど、例えば民間の防災のアプリを使う若者が多いと感じているので、もう既にしてているのかもしれませんが、そういったアプリとリンクして情報を流せばいいのではないかなと思つています。
- ・あとは、DX関連だとバスロケーションシステムは市営バスでやつていて、これはまさに市民力+民間力によって利便性が向上した例であり、これからもどんどん広がつてほし

いと思っています。

- ・スマートフォンを持っている割合はかなり高まっていますので、アプリとして情報提供できると、より市民の隅々まで届くことになるのかなと思っています。

○今日の意見の取扱等の事務連絡を行い解散。